



第37回日本分子生物学会年会 次世代育成事業
市民公開講座

参加費
無料

生命に迫る

サイエンス & アートの 新たな挑戦

事前申込
不要

急速に生命科学が展開する中、現代のアートやデザインはどのように生命を捉えなおし、描き出そうとしているのか。サイエンスとアートの境界領域の最前線にいる研究者・アーティストたちが熱く語ります。

2014年 **11月27日** (木)
19:00~20:30



岩崎秀雄

生物学者・造形作家 / metaPhorest (生命美学プラットフォーム) 主宰、早稲田大学教授

バクテリアを使ってリズムや形づくりの研究をする一方、抽象的な切り絵やバイオメディアを用いた美術作品を発表。2007年に自身の研究室を生命に興味を持つ作家たちに開放する、生命美学プラットフォーム metaPhorest を開設。近著に『<生命>とは何だろうか: 表現する生物学、思考する芸術』(講談社現代新書) など。



奈良島知行

サイエンスイラストレーター / Tane+1 LLC 主宰

エアブラシを使用した独自のイラストレーション表現技術が、ジョンスホプキンス大学の学部長 Gary Lees 氏の目にとまり 1985年に訪米。その後ニューヨークに拠点を移し、広告、書籍、教科書、雑誌等でサイエンスイラストレーションの仕事を展開。2005年、サイエンスアートの普及を目的に Tane+1 LLC を設立。2014年、拠点を日本に移し活動を本格的に開始した。



毛利悠子

美術家

1980年神奈川県生まれ。世界のさまざまな都市で見つけた日用品やジャンクをキネティックなオブジェとして再構成し、磁力や重力、光、温度といった目に見えない力を感じさせるインスタレーション作品を制作する美術家。本年は2つの国際展「札幌国際芸術祭 2014」「ヨコハマトリエンナーレ 2014」に参加。東京の駅構内の水漏れの対処現場のフィールドワーク「モレモレ東京」を主宰。



福原志保

バイオデザイナー / BCL

2003年にPioneers Awardを受賞し、ロンドンにBiopresence Ltdを設立。2007年より日本に活動拠点に移し、主にバイオテクノロジーの発展と水問題による社会へのインパクトと、私達の意識が自然・社会・文化それぞれの環境においていかに映し出されているのかを探索するべく、BCLというアーティスティック・リサーチ・フレームワークを結成。

会場 **パシフィコ横浜** 会議センター 3階 301

横浜市西区みなとみらい1-1-1

交通 みなとみらい線(東急東横線直通運転) みなとみらい駅から徒歩3分

JR・市営地下鉄桜木町駅から徒歩12分

主催 特定非営利活動法人日本分子生物学会

共催 横浜市

問い合わせ: 第37回日本分子生物学会年会事務局

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4階(株式会社エー・イー企画 内)

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2014@aeplan.co.jp

生命に迫る

サイエンス&アートの新たな挑戦 作品展示

2014年 **11**月**25**日(火)~**27**日(木)

8:00~19:00

会場 **パシフィコ横浜** 展示ホールにて



metaPhorest 主宰 バイオメディアアート、生命美学の世界

metaPhorest は 2007 年に岩崎秀雄が自身の研究室をアート作家に開放して設立した、生命美学に関するプラットフォーム。「生命」あるいは「生命科学」に強い興味を持つ個性的なアーティストたちが、それぞれのモチベーションに応じて、研究室の設備を用いたり、あるいは科学者との共同作業や議論を重ねたりしながら、先鋭的な表現を模索している。彼らの作品の多くは国内外で精力的に発表され、高い評価を得てきた。通常の生命科学とは一味違う「生命探究」の営みの一端を紹介するとともに、新たな対話が始まることを期待している。

<出展者>

BCL (福原志保, Georg Tremmel, 吉岡裕記)

AKI INOMATA

Juan M. Castro

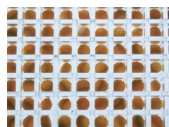
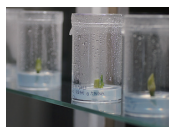
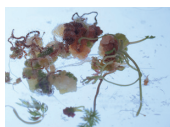
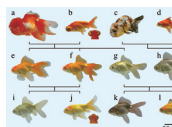
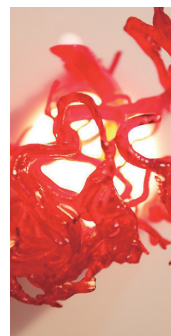
石塚千晃

石橋友也

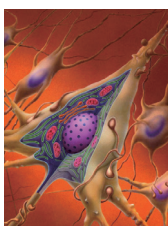
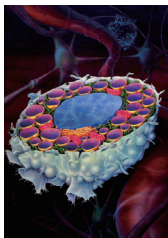
岩崎秀雄

Goh Uozumi

齋藤帆奈



サイアート・ネットワーク主宰 サイエンス・アートの世界



サイアート・ネットワーク (SciArt Network) は、サイエンスアートの重要性を一般に広く認知させ、教育機関および関係者に対してサイエンスアート教育を根付かせる活動を行っている。海外では欧米を中心にすでに百年前からサイエンスのビジュアル・コミュニケーションの重要性が認識され、イラストレーションを作る専門の職業が成立しているが、日本ではこの分野の重要性がほとんど認識されていない。この立ち後れた日本の状況を打開するために、2014年に「サイアート・ネットワーク (SciArt Network)」が設立され、分野を問わない活動を開始している。

<イラストレーション出展者>

奈良島知行

ジョンズ・ホプキンス大学

トロント大学

<出展協力>

有賀雅奈、菅徳子、ほか

<企画協力>

株式会社グエル

